

# 子ども食堂から始まる地域のウェルビーイング実現プロジェクト



子ども食堂は「子どもの貧困対策」ではなく、  
**「子どもからお年寄りまで多様な世代に地域の居場所をつくる」**  
 ことを目的としてプロジェクトを実施します。



## 子ども食堂・子どもの居場所の機能として大事にしたいこと

※さっぽろ「子ども食堂・子どもの居場所づくり」ガイドブックより抜粋

**1** 子どもが安心して過ごし、  
地域で子どもを育て、見守  
る場

**2** 子どもや子育て世帯の抱え  
る困難に気づき、働きかけ、  
支援につなげる場

**3** 子どもが交流や活動を通し  
て、いろいろなことを経験  
し学ぶ場

**4** 子どもだけでなく、  
大人も交流を深める地域  
コミュニティの拠点の場

## 子ども食堂ではこのような活動を考えています

### **1** 食堂はじめ



地域の多様な大人と関わり、見守り、一緒に活動し、子どもや若者だけでなく、親世代やお年寄りを含めた幅広い参与を促し、全ての人にとって、地域全体でのウェルビーイングの実現を目指します。

こうした環境を地域全体で実現していく意識の醸成を図るため、キックオフシンポジウムを開催します。子育て支援、居場所づくり支援、児童・生徒や若者の孤立に対する支援に取り組む個人・団体などの基調講演やパネルディスカッションを予定しています。合わせて、子ども食堂プロジェクトの概要について説明し、ボランティアスタッフを含めた幅広い住民や団体の参画を依頼します。

### **3** 組み合わせ食堂

参加者が一緒にご飯をつくる、ご飯を食べる、だけでなく、農業体験・収穫体験・もちつき体験・郷土料理教室の開催などの食育教育などを合わせて開催します。

さらに、民生児童委員、青年会議所、そば打ち愛好会、高校生ボランティアサークル、町内飲食店・菓子店・町内企業など、多様な団体の知見や協力をいただきながら運営し、多様な関係性の構築に努めます。



### **2** 居場所食堂



町内の地区まちづくりセンター等を拠点として、月1～2回程度の子ども食堂を運営します。参加者は子どもや親世代に限定せず、地域住民やボランティア参加を推奨し、食事は子どもたちを含めて参加者と一緒に作ることで、多様な主体との自然な交流を促す仕組みを構築します。

回数を重ねつつ、孤立を解消し、多様な属性と年代の方の交流の場づくりとの主旨の理解に努め、多様な主体が参加しやすい空間デザインについて、参加者や運営側と一緒に構築していきます。

### **4** チャレンジ食堂

スポーツ・音楽・伝統・文化・芸術など幅広い体験や経験の機会の創出に努め、子ども食堂と組み合わせで開催することで、子どもたちの多様な可能性を育む活動とします。

夏休み等の長期休業期間などを中心として、家庭環境によっては、子どもたちの体験や経験に機会の減少が見られることから、子どもたちに多様な体験の機会を創出する活動について、子ども食堂の開催と合わせて実施します。

